

KOCA NEWS

Vol.7 2024年1月号



Subotica in Serbia, photographed by Saki Matsuse (2022-1/support for disabled children・persons)

目次

- 02 秋の国際交流イベントブース出展
- 03 パラグアイスナップ写真展を開催しました / JICA海外協力隊2023年秋募集説明会
- 04 JICA海外協力隊セミナー
- 05 10月の表敬訪問と壮行会
- 06-07 2023年度2次隊のみなさん、いってらっしゃい!
- 08-09 JICA海外協力隊員 活動報告
- 10 国際理解講座【第27回地球っこ講座】
- 11 連載 VIVA COLOMBIA
- 12 青年海外協力隊員 現地レポート
- 13 連載 読書を通して、ヒーローになれる
- 14-15 連載 谷口英明さん×小説
- 16 JICA海外協力隊派遣実績

秋の国際交流イベントブース出展

11/3（金）、京都市国際交流会館でのKOKOKAオープンディ2023では、来場者にSDGsを知ってもらうためのクイズと缶バッジを120個用意しました。



会場にはたくさんのお子どもたちが訪れたので、子ども用の本や地図、シールなどもどんどん手に取ってもらいました。

ブースを訪れた5人の学生や社会人には「協力隊ナビ」として、協力隊の参加の流れについて話しました。たまたまブースを訪ねる人もいれば「大学卒業後すぐに参加したい」と相談に来られる人もいて、協力隊を話題に楽しいひと時を過ごしました。



同日、京都府立植物園では府民交流フェスタが開催されました。クイズラリーに参加するために、約1,000人の来場者がひっきりなしにブースを訪れる中、コロンビア隊員OBが経営する「contigo conmigo」のドリップコーヒーの販売やKOCA主催の「JICA海外協力隊セミナー」の広報をしました。

パラグアイ スナップ写真展 を 開催しました

9月16日と17日、京都市上京区の堀川商店街にあるギャラリーにて、パラグアイで青少年活動として派遣されている畑中遥さんの活動写真や任地の風景を中心に、パラグアイの食、文化、名所などの写真を展示しました。延139名の来場者があり、マテ茶の試飲、パラグアイとのオンライントーク、JICA海外協力隊の紹介を通じて、来場者は写真を見て帰るだけではなく、協力隊経験者と交流し、協力隊経験を伝える場となりました。



JICA海外協力隊 2023年秋募集説明会



11月4日（土）、TKP京都四条駅前カンファレンスセンターにて13名の参加者があり、ガーナで助産師として活動した隊員の体験談を聞いた後、協力隊経験者と輪になってざっくばらんに話しました。11月26日（日）は京都経済センターにて15名の参加があり、パプアニューギニアで堆肥づくりや清掃活動をした隊員の経験を聞きました。昨年からはじめた協力隊ナビを通じて知り合った人も説明会に参加する場に接し、応募に至るまで継続的に応援できる関係性が作れてきたように思います。

JICA海外協力隊セミナー

11月12日、KOCA主催で、京都経済センター会議室にて開催しました。

JICA海外協力隊セミナーは、JICAボランティア経験者の社会還元活動の一環として、国際協力活動に興味のある学生、一般府民を対象に、JICA海外協力隊事業についての説明並びに協力隊経験者からの活動報告を行い、国際理解と、グローバル人材の育成を促進することを目的に開催しました。

今回のセミナーでは、JICA関西、京都府、京都府教育委員会の後援をいただくとともに、JICA関西のホームページやKOCAのFacebookでの広報、チラシの配布などにより、セミナーの周知を図った結果、高校生や大学生が多く参加してくれました。

セミナーのプログラムは、最初に、JICA京都デスクの西川玲奈さんに、JICA海外協力隊についての説明をお願いしました。

次に、KOCA理事で、パラグアイOV、現在パラグアイに短期派遣中の畑中遥さんが、オンラインで参加、次に、ペルーOVの柴田柚香さんが会場から、ベリーズ派遣OVの森川真秀さんがオンラインで、現地の生活や活動の様子を話されました。

参加者から、事前に質問を受けており、海外協力隊に興味を持ったきっかけは？、海外でのボランティア活動で得られたものは？、大学生のうちにしておいた方がよいことは？などの質問に対して、講師に答えていただきました。

参加者からのアンケートでは、話がとてもわかりやすかった、実体験を聞いたことで協力隊の様子を具体的にイメージできた、質問に対して丁寧な回答をいただけて嬉しく思ったなどの感想があり、参加者は概ね満足されていました。



今回は、音響機器をレンタルして、Zoomを使って、海外2か国を結んでの多重セミナーを実施しました。ビデオカメラの調子が悪くて、パソコンのカメラで、会場の様子を配信しましたが、初めての試みとしては、大成功でした。



参加者は、会場6名、
オンライン5名、
講師4名、
KOCA関係者9名でした。

10月の表敬訪問と壮行会

今回の表敬訪問では、5人の新隊員とともに、2021年度3次隊コミュニティ開発隊員としてルワンダで活動した隊員が帰国表敬訪問に参加されました。



2023年度2次隊 表敬訪問

京都府 2023年10月3日(火) 派遣前隊員5名 帰国後隊員1名

京都市 2023年10月4日(水) 派遣前隊員4名 帰国後隊員1名



堀川商店街にある「京極ダイニング」で開かれた壮行会には、専門家としてウルグアイに派遣された梶田さんに駆けつけていただきました。

2023年度2次隊のみなさん、いってらっしゃい！

宮本 拓海 さん

■ 応募したきっかけ
将来のキャリアとしてJPOなども考えたため。

■ 訓練所での思い出
毎朝のテニスです！

■ 派遣に向けての今の気持ちを一言どうぞ
安全と健康に気をつければ、
あとはなんとかなると思ってます!!

派遣国：マルウイ
職種：青少年活動



平野 公 さん

■ 応募したきっかけ
もともと国際協力に興味があったこと &
日本と合気道への恩返しがしたいと思ったからです。

■ 訓練所での思い出
ひたすらスペイン語の勉強に追われていたことです。

■ 派遣に向けての今の気持ちを一言どうぞ
不安もありますがワクワクしてます。
地球の裏側でたくさん稽古をして
日本の合気道の魅力を伝えたいです。

派遣国：ウルグアイ
職種：合気道



米満 美里 さん

■ 応募したきっかけ
小学生の頃から協力隊に憧れており、
子供達の就職を機に思いきって応募しました。

■ 訓練所での思い出
みなさんの元気と体力と行動力に、
たくさんの刺激をいただきました。

■ 派遣に向けての一言
モロッコの職場や近所の方々と沢山お話しして、
日々の暮らしの中で課題の答えを見つけたいなあ
と思ってます。

派遣国：モロッコ
職種：服飾



田部 祐輔 さん

■応募したきっかけ
日本に来ることが難しい人が日本や日本語に対してどう思っているか興味をもったので応募しました。

■訓練所での思い出
談話室で同じ班のメンバーとした何気ない会話。

■派遣に向けての今の気持ちを一言どうぞ
日本語の授業を通して日本のことをもっと好きになってもらえるように頑張りたいと思います。

派遣国：チュニジア
職種：日本語教育



吉川 志乃 さん

■応募したきっかけ
水泳の楽しさを世界の子どもたちに知ってもらいたかったのです。

■訓練所での思い出
スペイン語を必死にみんなに教えてもらったこと。

■派遣に向けての今の気持ちを一言どうぞ
現地の方々と楽しみ、時にはもがきながら健康と安全に気をつけていきます！

派遣国：エクアドル
職種：水泳



Profile

名前 荒木 京子

隊次 2016-2次隊

派遣国 ケニア

職種 青少年活動

現在の職業 国際NGO



1 協力隊に応募した理由は何でしたか。

中学生の時に、当時UNICEF親善大使だった黒柳徹子さんが書かれた『トットちゃんとトットちゃんたち』を読み、自分がある環境と全く異なる状況が同じ世界にあることに衝撃を受けて以来、国際協力の分野で働きたいと思っていました。国際NGOで働くためには、海外で2年の経験が要求されます。そのための経験を積むために協力隊の要請を見ていたら、専門にピッタリな仕事が、たまたま見つかったので応募しました。

2 現地での活動や日々の生活の様子を聞かせてください。

保護監察局に籍を置き、通常業務である、拘留者や家族の面談とその報告書作成、保護観察中のクライアントの定期面談と家庭訪問等を手伝うと共に、自分の専門性を活かして、クライアントや家族との心理カウンセリング、小学校・高校(中学は教育システム上ない)・児童保護施設・刑務所等で、犯罪予防の啓発活動のためのワークショップ、その実施者トレーニング、協力隊員へのワークショップを行いました。

また、現地の企業と児童保護施設をつなげ、保護施設の園長と共に、企業の廃材で児童がモノづくりを体験し、将来の職業につながるようなプログラムを導入しました。

私生活では、隊員とサファリに行ったり、ケニア山に登ったり、観光や集まりを楽しんだりしました。

3 活動や生活のなかで

・戸惑ったり、困ったりしたことはどんなことでしたか？

外国人というだけで、同僚を含め、様々な人に金銭を要求されたり、徒歩15分だけの通勤途中で、毎日「チャイナ」と呼ばれ、返事をしてもしなくても、毎日何人もの人に呼び続けられたりしました。

乗合バスは人が埋まらないうち、1時間でも2時間でも出発しない、直行便だと言われたのに、途中で乗り換えを要求されたり、乗り換え地でひたたくりに合ったり、吐きそうな乗客に窓側の席を空けてあげたら、かなり手慣れたスリに、財布を取られたりといったこともありました。

・失敗や苦勞はどんなことがありましたか？

公私共に、ダブルブッキングや時間を守れないことはもちろん、時間前に、電話が通じなくなるなど、ドタキャンされることが常でした。現地の人に聞くと、約束する時は、相手を喜ばせたい気持ちの方が勝って、できない約束もしてしまうのだそうです。約束と時間を守ることは、日本人にとっては信頼関係の基礎であると思います。頭では文化の違いと理解していても、心が追い付かず、人への信頼を失いそうになりました。



・楽しかったこと、やりがいを感じたことはどのような事でしたか？

特に刑務所でのワークショップでは、みな熱心に参加してくれて、やりがいを感じました。囚人になれば、家具作り等の仕事が与えられますが、拘留者は、数か月から1年、刑務所で食事の他はすることがなく、ストレスや絶望を感じる方も少なくありません。怒りの衝動コントロールの困難、薬物・アルコール依存から逮捕につながった方も多く、そういったニーズに沿うようにプログラムを作成し、実施後は、参加者自らワークショップを行う人も現れました。



4 活動を通して得られたこと、あなたが変わったなと思うことはどのようなことですか？

例えば、能力面（語学、専門性）、資質・性格面、価値観・考え方、人間関係、その他（感動、夢）

上記刑務所のワークショップ参加者に面会に来た妻に、「あなたは彼に希望を与えている」と言われたことがありました。現状や社会を変えることはできなくても、学ぶこと自体が彼らの希望になっているのだと学びました。怒りに身を任せ、罪を犯したことで、薬物やアルコールに依存しなければならず、逮捕されたことは、決して望ましい出来事ではないけれども、それをきっかけに何かを学び、豊かな人間関係を築くこと、そこから得る喜び、学び達成する喜びを通して、後の人生に活かせるぐらい、かけがえのない瞬間になるように心がけました。

その瞬間を、国を越えて共に過ごす喜びを、私はたくさんもらいました。私がしたいと思ったこと、全て、ケニアが叶えさせてくれました。それは、経験と自信になり、今の仕事に確実につながっています。

5 協力隊の経験を今後の人生にどのように生かしたいですか？

（仕事、趣味、地域での活動など）

協力隊の時に、現地の人の中で暮らしたことで、現地で過ごす上で大切なことを学びました。それは、挨拶をすること、相手の名前を呼ぶこと、電話やメールで済むことも顔を見てコミュニケーションを取ること、時間や約束が守られないからこそ、チャンスが来た時に全てを進められるようによく準備しておくこと等です。これらを実践し続けることで、国は違っても、アフリカ人をはじめ世界中の人と、仕事を楽しくしていると思います。今でも大変なこと、腹が立つことは変わらずありますが、何度喧嘩をしても、最後には深い包容力で、温かく受け入れてくれるアフリカ人にたくさん出会ったことが、私の原動力になっているのだと思います。



国際理解講座【第27回地球っこ講座】 テーマ：「非識字体験ゲーム ここは何色」

10月29日(日)午後1時30分～3時30分：京都府南部の精華町役場の交流ホールで、NPO法人京都海外協力協会(KOCA)とせいかグローバルネット(SGN)と精華町との共催で、国際理解講座「地球っこ講座」【非識字体験ゲーム ここは何色】を開催しました。12か国の言葉で書かれている「色」を仲間と協力しながら調べて、100マスの絵を完成させるワークショップです。文字が読めないことを体感しながら、外国で暮らす苦労や大変さに気づき、外国のことをもっと知りたい、学びたいという意欲付けにつなげていきます。また、日本語の文字が読めない人たちのためにどのような工夫ができるかを考えていきます。小学生から大人まで23名の方が参加しました。参加者は開始までの時間に、大きな世界地図に行ったことのある国に赤シール 行ってみたい国に青シールを貼ってもらい、グループでの自己紹介もそれを話題に進めてもらいました。



初めに、ゲームのルール説明として、タイ語→スペイン語→中国語の順で説明用紙が配られましたが、全く分からず、最初の非識字体験にとっても戸惑っていました。(ただし、中国人は中国語の説明書は分かったと言っていました)日本語のルール説明が配布されて、やっとゲームのルールが分かり、ゲームを始めることができました。



まず、指示カードにある色を会場にあちこちに掲示されている12か国の色辞書から、調べてきて、指示された100マスの番号に色を塗っていきます。1回目は、色辞書の場所を探すのに時間がかかったり、色塗りが上手でなかったり時間がかかっていましたが、2回目はコツをつかんだのか時間内に、完成度の高い図が、出来上がっていました。お互いの作品を鑑賞・評価して、記号としか見えない12か国もの文字にも関わらず、作品が完成できたことに、お互いの努力をたたえあっていました。そして、グループで、ゲームを通して感じたことや考えたことを話し合い、全体で共有しました。



会場には、せいかグローバルネットの活動の様子とJICA海外協力隊OVの活動のパネル写真展もあり、国際色豊かな雰囲気の中で、文字が記号としか見えないという体験を通して、日本に住む外国人の気持ちを考え、私たちに何ができるかを考えました。

各グループからは、日本語が分からないという外国人の気持ちがよく分かったので、身振り手振りのジェスチャーでもいいから、外国人に親切にしていきたい。いろいろな国の言葉を学びたいなどの意見が出ました。

最後に言語分布で、一つの言語が公用語となっている国が1か国だけの言語と、数か国の公用語となっている言語があることの説明がありました。(フランス語はフランス以外でも公用語として話されている。など)他に、イスラエルに旅行に行かれた方から、現在の世界情勢を憂いて、イスラエルの壁の写真で、壁のある国の現状についての話もありました。

以下アンケートより

- ・ヒンディ語やアラビア語などは、暗号のような訳の分からないものにしか見えませんでした。だから、言葉が分からないというのは、とても不便で気持ちが落ち込むものだと思います。なので、言葉が分からないという方がいたら少しでも助けになる行動をしたいです。
- ・さまざまな言葉(色)を知ることができたり、一つの言葉が、いろいろな国で使われているということも知ることができたので、良い勉強になったと思います。
- ・世界には、自分が知らない言語がたくさんあるんだなあと思いました。外国の方が日本の文字や文化をどのように見ているのか、考えるいいきっかけになりました。



【 2023年10月30日(月) 京都新聞掲載記事 】





H23-1 (2011-1) コロンビア 野球

橘佳祐さんによる VIVA COLOMBIA

Hola.

前号では通訳の仕事ってどんなこと？

を大まかに説明させて頂きましたが、今号ではもう少し詳しい内容をお伝えしていこうかと思います。

まず、私の1日のスケジュールですが

18:00から試合が始まる日は、

| |
|---|
| 12:30 出勤 ミーティング準備、練習準備、外国人対応 |
| 14:00 練習開始 練習補助、練習時の通訳 |
| 16:00 ミーティング ミーティング時の通訳 |
| 17:15 グラウンドで試合前練習 ベンチにて必要があれば通訳 |
| 18:00 試合開始 ベンチにて、必要があれば監督、コーチ、日本人選手と外国人の間に入り通訳 |
| 21:30頃 試合終了 その後、試合の出場や成績によって、記者、テレビの取材対応。 外国人選手、帰宅対応、明日の準備、通訳でのミーティング |
| 23:00 帰宅 |

皆さんが想像されているような、巧みに言語を扱い通訳している様子はほんの一部の仕事に過ぎません。

実際は、家族のサポートから選手の私生活のサポートといった皆さんが見ることのない裏の姿のほうがとても多いです。

しかし、その"裏の姿"は私たちの仕事の中でとても大切です。

遠い国からやってきた彼らが心地よく生活をし、野球に集中して取り組める環境を作ることこそ、彼らが活躍するための最優先事項であるからです。

プロ野球は、全国各地で試合が行われるため私が所属する阪神タイガースが試合を行なっている場所に私が一緒に帯同しています。なので、年の半分、月の半分は出張に出ています。

今号では、1日のスケジュールについてお話しし、年の半分、月の半分は出かけているとお伝えしました。

次号では、プロ野球は1年間どんなスケジュールで動いているの？

という疑問が出てくるかと思いますが、そちらに私の業務内容も説明しながらお話しして行けたらと思います。

このような流れになります。

これは、阪神タイガースのホーム球場である甲子園球場で行われる試合の時のスケジュールです。例えば、東京で試合がある時は、東京のホテルに宿泊しますので、試合後に食事に出掛けることが多いです。

私たちはよく、東京、横浜、名古屋、広島に出張で行くことがあるので、あらかじめ夜遅くでも営業しているお店をリストアップしておきます。

練習や試合が円滑に終わることはもちろん、食事面でのサポートもありますので、一緒に食事に行くことはとても多くあります。

もちろん家族が遠征に帯同する場合は、一緒に食事に出かけたり、試合が午後からであれば、午前中に家族を観光に連れて行ったりします。

野球の現場で通訳していることよりも、私生活でのサポートをする時間の方が圧倒的に多いのが現実です。



職業訓練校の紹介



池田愛子さん（2021-3 ガーナ PCインストラクター） から現地レポートが届きました。

みなさん、ウェゾー(現地のエウエ語でようこそ)。今号もガーナ便りをご覧いただきありがとうございます。今回は、ガーナでの日々の暮らしを紹介します。



ガーナ隊員は、みな一人暮らしをしています。私は、配属先の職業訓練校が管理している教員用の平屋建ての一軒家を隣人と分けた、二世帯住宅のような家に住んでいます。

配属された2022年1月は、ハマターンと呼ばれる季節風の影響でサハラ砂漠の砂埃が飛び交う季節。引越し初日は、家の中まで砂埃が舞い、まるでトトロの家のようにでした。その日は朝から停電し、首都との違いに打ちのめされ、ひとまずソファにダニ除けのビニール袋を敷いて座り、「どこから手を付ければ良いのか」と途方に暮れて茫然としましたが、今では笑い話にできるくらい快適に過ごしています。

私の家には公共の水道管が届いておらず、雨水を貯水槽に貯めて汲み上げた水が水道から出るようになっています。雨期は水が十分にありますが、乾期になると雨水が尽きてしまうので水の確保に一苦労。家の中にも貯水バケツを3つ常備し、水が満タンに入っていないと不安になります。キッチンもないので机の上にコンロを置き、バケツの中で洗い物を作ります。洗濯も、もちろん手洗いです。今では、ガーナ人にも褒められるくらい手洗いが上手になりました。



停電の多い任地では、吊り下げ式のランタンが重宝します。また、タオルとペットボトルの水を常に冷凍庫で凍らしておくことで、寝苦しい夜に停電しても、ファン無しで爆睡できるようになりました。

ガーナではマラリアに対する防蚊対策が大切であるため、ベッドには蚊帳が必須です。

明け方4時過ぎから始まるコケコッコという鶏の鳴き声や、やぎと羊の混成大合唱も、日本に帰ると懐かしく感じるのだと思うと、この生活も悪くありません(笑)。





読書を通して、ヒーローになれる。

留年3年生、ビブリオバトルを開く

エピソード5

益井博史さんによる連載企画「読書を通して、ヒーローになれる。」第5回をお届けします。
益井さんがビブリオバトルに出会ってから現在に至るまでの活動、ビブリオバトルってどんなことをするの？その魅力とは！？
など、様々な視点からお伝えしていきます。



【自己紹介】

- 益井 博史 (Masui Hirofumi)
- ・ 青年海外協力隊2015 (H27) 年度3次隊 / 青少年活動 / ソロモン
 - ・ 立命館大学情報理工学部創発システム研究室 客員研究員
 - ・ 一般社団法人ビブリオバトル協会 職員
 - ・ ビブリオバトル普及委員会 理事
 - ・ 大学卒業後、まちづくり会社を経て青年海外協力隊に。
帰国後、ビブリオバトル考案者の研究室で論文執筆や大会運営に携わる。
 - ・ 著書『ソロモン諸島でビブリオバトル』（子どもの未来社）
 - ・ 最近の趣味：サウナめぐり、ボードゲーム

(前回までのあらすじ)

初めてのビブリオバトルでチャンプ本を獲得したものの、全国大会には出場し損ねた形になった筆者。なぜか「自分で予選を開く」と決意したようです。

ビブリオバトルに出場して感じたことの1つが、

「ビブリオバトルの運営って、めちゃくちゃコスパがよくないか??」

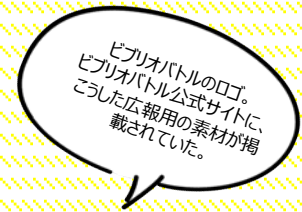
だった。

たとえば1人でコンサートや料理教室なんかを開こうと思うと、自分に演奏や調理のスキルがないと難しいだろう。でもビブリオバトルの場合、開いてさえしまえばバトラーが面白い本を魅力的に語って場を盛り上げてくれるので、特別なスキルは必要ない。

その上、自然と本好きの知り合いができるかもしれないし、本について堂々と語れる場を作る。何より、僕が活躍できるチャンスが増える！

ビブリオバトルの全国大会は、サイトを見ると確かに各地で予選が行われていた。でも地元の京都市ではほぼ開催がなかった（ビブリオバトル発祥の地なのに！）。本当にもったいないと思った。僕はもっともっとビブリオバトルに出たかったのだ。予選を開こう。ビブリオバトルを増やそう。

予選を運営すると決めたら、しなければいけないことが自然と大量発生した。会場の確保、必要な機材の準備、大会の予選にするための手続き、そして広報…。すべて手探りで、どこから手をつけていいかわからない。でも不思議と楽しかった。自分がしたいことのために動くのは、こんなに楽しいのか！



知的書評合戦
ビブリオバトル

会場とマイクやスクリーンといった機材は、伏見青少年活動センターに快く使わせてもらえることになった。

(イベント実施に向けて、その後もたくさん相談に乗っていただきました)

問題は、集客だった。

出場するバトラーがいなければ、予選にならないどころかイベント自体が成り立たない。

さらに僕には、気軽にビブリオバトルに出られるような友だちは思い当たらなかった。悲しい。

ただ、一つだけ作戦を胸の内に秘めていた。

(次回に続く)

今回の一冊：『ゾン100～ゾンビになるまでにしたい100のこと』

(麻生羽呂 原作 / 高田康太郎 作画 / 小学館)

突如ゾンビで溢れ返ってしまった世界。だがブラック企業に勤める主人公アキラは会社にいかなくてよかったことに歓喜し、「ゾンビになるまでにしたい100のこと」リストを作成して、達成に挑むのだった。どんな世界でも、自分のやりたいことに向けて動きたいと思わせてくれます。

谷口英明さん × 小説 日々の生活の中で、京都を深掘りする ～「DIG into KYOTO」～

連載
企画

今回は、谷口さんの小説の第3作品「パレスの街」について、インタビューしていきます！

○「パレスの街」のあらすじを教えてください。

小林美佳と清水勇人は京都の高校の同級生で、今は美佳は東京、勇人は京都でそれぞれ暮らしている。美佳は数年ぶりに京都に遊びに行こうと新幹線で京都に向かっている時、勇人から京都のコーヒー店で会わないかというメールを受けた。

金沢出身の吉田浩史は建築を勉強するために京都にやってきた大学1年生だ。禅宗の代表的な寺院建築と明治の近代建築を見るために南禅寺と水路閣を訪れた。浩史は南禅寺に向かう途中で「南禅院」という塔頭が近くにあることを知り、興味を持ったので「南禅院」を訪れる。亀山天皇が愛した「南禅院」の素晴らしい庭に感動した浩史であったが、その庭で同じく庭に興味を持っているのか、さかんに写真を撮っている女性と出会った。浩史は庭の奥にある亀山天皇の分骨所の前に移動したが、浩史のすぐ後ろで先ほどの女性も興味深そうに分骨所の建物を見ていた。

美佳は勇人との待ち合わせのコーヒー店に着いた。店の奥に入っていくと勇人ともう一人の男性が席にいた。勇人に近づいていった美佳は、もう一人の男性と一瞬どこかで会ったような気がした。勇人はその男性（吉田浩史）とこれから勇人が開業するゲストハウスの間取りのことで打ち合わせをしていた。打ち合わせの間、美佳はしばらくの間、席をはずし、店内で販売しているコーヒー器具を見ていた。美佳が席に戻ると、勇人から美佳に開業するゲストハウスの運営を手伝ってほしいと依頼があった。ゲストハウスの間取りについての打ち合わせが終わった後、吉田浩史は店を出ていった。

その後、勇人と美佳は店を出て、コーヒー店の近くにある京都御所に歩いていった。そこはかつて二人が高校時代によく訪れた場所だった。テニスコートの前のベンチに座り、二人は京都御所での高校時代の思い出を懐かしく語り合うのだった。

○ストーリー誕生秘話を教えてください。

実際にKurasu Ebisugawaというコーヒー店を最初に訪れた時は、白を基調とした店の外観そして内装のスタイリッシュさに心が奪われました。店のバリスタ（女性）と少し話をしたのですが、あとで店のブログで、そのバリスタがなぜKurasuで働こうと思ったのか、その経緯が詳しく書かれていました。その話にヒントを得て、小説の中で清水勇人がゲストハウスを開業するにあたり、高校時代の友人小林美佳のバリスタとしての経験を見込んで、ゲストハウスの中でカフェをやらないかと誘うというストーリーが思い浮かびました。

○書き上げまでにどのくらい期間がかかりましたか。

4か月です。

○作品を書く中での思い出を教えてください。

作品の舞台となっている京都御所（以下、御所）は、私が1970年代、大学に通っていた時によく訪れたところでした。御所での思い出は、御所の北東にかつてあった広いグラウンドです。そこで大学の体育の授業（ソフトボール）がありました。また大学のゼミ対抗のソフトボール大会もそのグラウンドで行われました。小説の第3話「わだち（轍）」のところで、清水勇人が「僕たちはこの近くの広場でソフトボールをしてたけど・・・」というセリフは、その自分の思い出（体験）から、出てきたものです。



○作品の中でこだわりの部分を教えてください。

「DIG into KYOTO」の小説は、ひとつひとつの短編の物語が完結しています。しかし、今回の小説（第3小説）「パレスの街」は、第2小説「リバーサイド物語」と同一の登場人物が出てきます。皆さん、誰なのかお気づきだったでしょうか？

その登場人物は、吉田浩史です。第2小説では、建築を勉強している大学生、第3小説では建築を勉強している大学生と社会人（建築事務所に勤務）の吉田浩史を登場させています。

○この作品をどのような人に読んでもらいたいですか。

読者のターゲットは特に定めていません。今回の小説のテーマの1つは京都の文化の重層性です。西暦794年に京都に都が移されて以来、西暦1869年まで77代の天皇が京都に住まれ都であり続けました。長い間、京都に都があったという歴史は独特な「宮中文化」を形づくってきました。現在でもその文化は脈々と京都の街に受け継がれています。

この小説を読まれた方が、実際に京都の街を見て「感じること」を大切にいただけたらと思います。

○「パレスの街」を執筆する中で一番苦戦した、大変だったことは何ですか。

この小説をどういうタイトルにしようか悩みました。現在の京都の姿・特徴を一言で言い表すものをタイトルにしようと思いました。それは何だろうといろいろ考えた結果、「パレスの街」という言葉を考えタイトルにしました。

○最後に、皆さんに向けて作品の魅力PRをどうぞ！

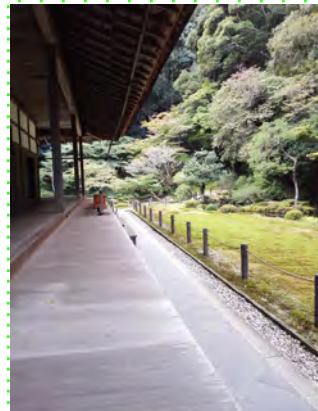
登場人物の清水勇人と小林美佳の若い二人がそれぞれ海外体験したことにより、今まであまり意識もしてこなかった日本社会や日本文化の特徴・特性を日本に戻ってから、これまで以上に強く意識するようになったと小説で書きました。

そして、ゲストハウス開業を「パレスの街」京都で実現するという夢に向かって二人が歩みだす姿は小説を書きながら、とても楽しくすがすがしかったです。

小説の登場人物ではあるのですが、読者の皆さんがこのような行動力のある若い二人を応援してもらえれば、作者として嬉しく思います。



<https://note.com/2021digintokyoto/n/nbb37f633cee5>



JICA海外協力隊派遣実績

青年海外協力隊／海外協力隊

現在派遣者数 59か国 725名

総累積人数 93か国 46,640名

京都府

現在派遣者数 17か国 20名

総累積人数 81か国 991名

シニア海外協力隊

現在派遣者数 26か国 56名

総累積人数 78か国 6,620名

京都府

現在派遣者数 2か国 2名

総累積人数 51か国 155名

日系社会青年海外協力隊／日系社会海外協力隊

現在派遣者数 4か国 30名

総累積人数 9か国 1,575名

京都府

現在派遣者数 1か国 1名

総累積人数 7か国 38名

日系社会シニア海外協力隊

現在派遣者数 2か国 2名

総累積人数 10か国 550名

京都府

現在派遣者数 0か国 0名

総累積人数 2か国 5名

2023年3月31日現在

※2019年度2次隊より、隊員区分を年齢による区分から案件による区分に変更。

KOCA NEWS 1月号、いかがでしたか。

KOCAネット（メーリングリスト）では、各種行事の案内や会員の関連する行事を紹介しています。登録ご希望の方は、office@koca.or.jpにメールを送り、お名前とメールアドレスをお伝えください。

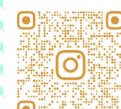
HP



Facebook



Instagram も見てね！



KOCAは、京都府在住のJICA国際協力ボランティア事業への参加経験者を中心とした組織です。国際協力活動で得た貴重な体験を生かして、異文化理解の促進、地域の国際化と国際理解のために様々な活動を展開しています。

編集・発行 特定非営利活動法人 京都海外協力協会（KOCA）

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
ひと・まち交流館 京都 PO.BOX No.27